

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第46回● スウェーデン遠征

ドイツに来てからの目標だったエストニア遠征に行くべく、ソーソロフに何かとーナメントがないかと聞いてみた。すると、11月の中頃にスウェーデンとのチーム対抗戦があることを発見。参加していいか、と聞くともちろんOKということだったので、そこに照準を合わせることにした。飛行機を調べてみると、フラックフルト・ストックホルムはいろんな航空会社が入っており、その分値段も安い。反対にエストニアは不便で高いことがわかった。ストックホルムの往復で250ユーロだったから、新幹線で東京・大阪を往復するようなものである。余談だが、欧州にはライアンエアという格安航空会社があ

り、値段が往復で何と10ユーロなんてものもある。雑誌で読んだが、徹底したコスト削減で成り立っているらしい。席も自由席で荷物を預けると有料だそうである。お金を取るためではなく、そうすると皆時間前に搭乗完了となっていて稼働率が上がるらしい。将来は立席やトイレ有料という構想もあるらしい。格安航空会社に限らず、欧州では事前に自分のパソコンでチェックインが可能なので、発券を自分でしていきなり搭乗口まで行くことが可能である。飛行機の事情はまだまだ日本は見習うべき所が多いようである。

さて、11月13日、朝6時前に家を出て、7時20分のルフトハンザに乗る。ストックホルムまで2時間の旅だ。そこからアーランダエクスプレスに乗って中央駅まで出た。このあたりの事情や写真は別途連珠世界に

チーム表 (計8チーム)

OPEN SWEDISH CHAMPIONSHIP 2010 TEAMS	
LIRK 1. Bengt Asplund 2. Marcus Eriksson 3. Bengt Åberg 4. Torbjörn Olmstedt	ESTONIA I 1. Arto Saarimäe 2. Enko Olumets 3. Nikita Meier
KUM JÖNKÖPING 1. Peter Jonsson 2. Richard Sundström 3. Martin Karlsson	ESTONIA II 1. Martin Håkemiägi 2. Villem Hüssis 3. Raim Suvula
STORK 1. Björn Lud 2. Björn Levinsson 3. Jan Fanell 4. Katarina Andersson 5. Anne-Sissela	ESTONIA III 1. Tiit Vunk 2. Oskari Kyzjakov 3. Liina Nätim
Norrköping 1. Norihiko Kawamura 2. Emma Wanner 3. Jascha Theimer 4. Anne-Sissela	ESTONIA IV 1. Tiina Iho 2. Sina-Maria Ristik 3. Kristina Ojamaa

掲載予定なので、かぶらないように書いてみよう。

私は進行役のジャッキムとエンマと一緒にチームノルコピングとしてスウェーデンチームの一人として参加することになった。

会場の様子

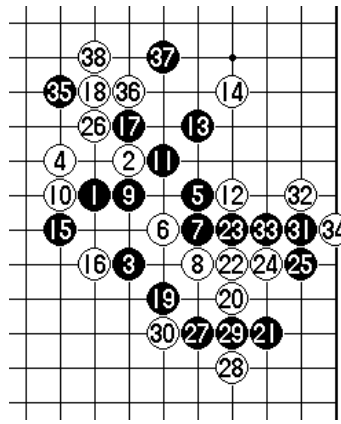


フジョン・リンド戦



エストニアからは12名の参加だが、子供には親が着いてきたので総勢ではもつといたようだ。全員船の移動で強行軍だったらしい。会場の大きさは東京連珠会の例会程度で、盤が12面あったから、東京連珠会のよいうな賑やかさだ。子供は五目ルールでやっていたが、あつという間に1局が終わる場合も多かった。五目は2局裏表やっていたようだ。さて、連珠世界には報告しているが、1局目にアンツとあたり完敗。2局目から頑張ることとなった。

示黒 ビジョン (瑞典)
白38にて黒投了

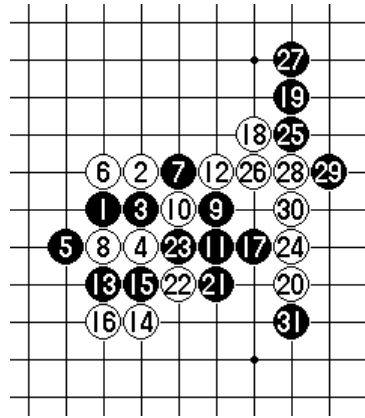


2局目は若くて筋肉たくましいビジョンさんと。またしても嵐月を提示されたので、今度は名月共通に防ぐ。こういう時に頼りになるのが昔からの研究で、20年以上たった今でもこれで勝てるのが連珠のいいところだ。若い頃に身に付けた技術はいつまでも忘れないらしい。

さて、白20の作戦に対し、黒21は一手パスのような手なので、慎重に防いだ後、白26に打って必勝となった。次も何とか勝って迎えた

のがRIF会長のヨンソン氏である。来年の世界戦が彼の地元で開催されるためスウェーデンチームのメンバーはそのことで話題が持ちきりだったようだ。

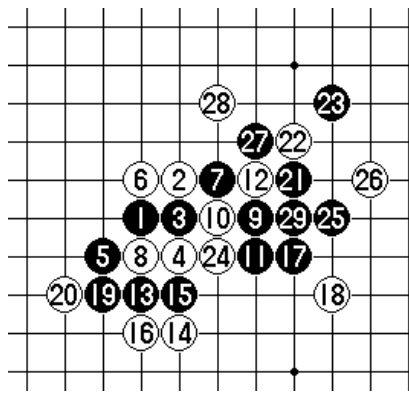
示白 ペーターヨンソン
黒31にて白投了



雲月三題を指定されたのでどんな作戦かと思ったら、白4の作戦だった。それなら、と黒5で浦月共通に戻す。白も6で斜月共通に戻し、序盤からいろんな珠型を渡り歩いたようだ。結局、白8で斜月の変化と共通となった。

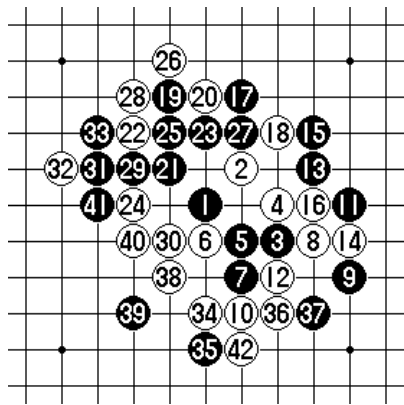
黒15までは定石の教え

る所だが、白16はあまり見たことがなく、迷った。黒17に白18と伸びてくれたので勝つことができたが、伸びない時はどう打つのだろうか？帰ってから中村氏に聞いてみた所、既に研究済みだった。しかし、その後教室で教えられたのが次の図。こちらの方が簡単だ。



実戦を打つことは、次の作戦を見つけるのにも有効だし、昔の作戦の確認や穴を見つげるのにも有効だということが改めてわかった。その次のブंकさんとの一局も紹介しよう。

黒 ブंक (エストニア)
白42にて黒投了



名人戦でも仕掛けた白6までの作戦を使った。黒7は雲月定石のようで好点には違いないが、白にも810と三々を脅かして攻める手がある。その後は黒17からの攻めが大胆すぎたようだが、つちり受け止めて勝ちとなった。

遠く離れた外国ではあるが、行ってみるといろんな人と会うことができて楽しかった。ぜひ定期的に競技会に参加したいと思っている。